

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4570600355		
法人名	医療法人 杏林会 三股病院		
事業所名	グループホームみみつ(杏ユニット)		
所在地	宮崎県日向市美々津町3870番地		
自己評価作成日	令和4年9月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内
訪問調査日	令和4年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①病院が併設しているため、緊急時の連携、充実した看取りの体制と組めている。また、歯科衛生士、栄養士、リハビリなど多職種との連携が図れ、助言や指導を受ける体制が整っている。

②入居者様の認知症状を理解し、日々の変化に合わせた柔軟な支援が実施できるよう、職員間の情報共有に努めている。

③感染症対策の為、交流が減少しているがipadでのテレビ電話や動画・写真などを送り、ご家族様へ近況報告を行っている。

④畑で季節の野菜を育てる事で、季節感を感じ、毎日の食材に使用し食べる楽しみにつなげている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ渦で、朝礼での理念の読み合わせができていないが、月に一回の職員会議で読み合わせを行っている。理念は、玄関と休憩室の入り口に掲示して目につくようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策のため、地域とのかかわりは出来ていないが、商店からの野菜の購入、行事の際の弁当の配達を継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議は開催できていないが、勉強会の資料を会議委員や家族へ送付している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行なえていないが、サービスの状況や利用者の状況を文書にて送付し、意見があれば連絡を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者やしの職員に連絡や相談を行なっている。 各書類の提出の際に相談を行なうようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠は行っていない。身体拘束廃止について新入職員への研修を行なっている。また、職員会議で定期的に勉強会を繰り返し実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を年に1回実施している。全員がチェックリストを行い、自分や他職員のケアに見直す機会を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する知識が不足しているため、社会福祉協議会や福祉課との関係者に相談して知識を高める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者や家族に契約内容や重要事項の説明を行なっている。また解約になる場合の事例も説明している。 改定や加算の変更時には電話や文書にて報告している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、運営推進委員会での意見交換は出来ていないが、面会時や計画書の見直しの際にご家族や利用者に意見や要望を聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人面談を実施し、意見や提案が出来検討してもらっている。毎月の職員会議で出た意見や要望を経営者への相談につながっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人目標が有休消化6日間、育児休暇、看護休暇の取得、キャリアアップを目指す職員の資格取得研修参加を積極的に行うことなので、資格取得した職員は給料や昇給に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	4月に研修参加計画を作成し、許可をもらっている。 院内研修では感染対策など指定研修に参加し、参加できなかった職員には看護師が勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモート研修が主になっている中で、多職種との交流が持てている。院内勉強会でも、他職種との交流が持てるので、不得意分野の助言ももらえている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族、担当ケアマネ、医療関係、利用しているサービス事業所から情報を集め、アセスメントを行なっている。施設内で情報が共有できるように申し送りノートに情報を掲示している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時に家族の意向を確認している。その際に確認出来なかった事は、電話やラインにて情報のやりとりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が遠方の場合も増えているので、親戚、担当ケアマネや医療機関、各事業所から情報を集め、必要なサービスが提供出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	担当職員と、本人の自立支援に向けて意見を出し合い、家族にも生活歴を確認することで本人の生きがいをみつけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染対策の為、家族との面会制限があるが、ipado利用し、登録できた家族とテレビ電話や写真や動画の共有を行なっている。面会時はドアのガラス越しではあるが短時間の面会を行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染対策の為、外出は出来ていないが、電話やテレビ電話などで家族や知人と交流が保てるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話がしやすい利用者同士の席の配置に配慮したり、意思疎通が困難な利用者も外気浴や散歩、行事に参加し、両ユニット間での交流が図れるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約して退所されても、郵便物や行政・病院からの問い合わせに対応している。受診の際に会った時など、声をかけ、相談あれば対応するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員と一緒に本人の思いを聞き取りしている。意思表示できない利用者であっても、生活歴や家族の話から気持ちを察するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、家族・担当ケアマネ・医療機関・両サービス事業書から情報収集を行い、アセスメントを実施し、機会がある度に確認するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、血圧・脈拍・他音の測定、皮膚の状態・顔色・表情などの観察を行い、記録している。職員全体でその方の状態が把握で居るように努めている。検温は午前・午後に確認し、早期発見・把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月計画に沿った評価を担当者が行い、定期的に計画の見直しをしている。その都度生活の中での課題を見つけ、担当者会議で検討を行い、支援内容に取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや利用者の状態を支援経過記録に記入し、重要な事項は、申し送りノート、朝礼、終礼等で情報の共有を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に沿った受診、状態に合わせた病院の受診を行なっている。その都度、ご家族へ報告を行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染対策のため、ボランティアの方や地域の方との交流が出来ていない。民生委員・区長等へは毎月の状況報告は文書で行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設している病院との連携を取り、体調に異常があればその都度受診し、対応する事が出来ている。また、月1回の訪問診療や定期健診でも、状態の報告相談を行なっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルや皮膚状態、痛みや歩行状態などその都度看護師に報告し、看護師が受診の判断を行っている。受診した場合は、記録に残し、全員が把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携体制を取っており、入院の際は情報提供を行なっている。また、退院前のカンファレンスや退院時サマリーにて確実な情報の共有を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や計画書見直しの際に、終末期の意向確認を行うようにしている。家族構成、実際の場面で以降は変化していくと、職員が理解している。看取りマニュアルを作成し、病院とも連携を図っていく必要がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故時は速やかに管理者と看護師に報告している。 夜間の急変時はマニュアルを作成し、病院との連携がスムーズに行えるようにし、職員も連絡体制を把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施している。 各職員が行う行動マニュアルカードを作成し、それに沿った訓練を行なっている。 非難後に活用できる利用者の顔写真入りカードを作成した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	掃除や戸締り確認時など居室に入る際には必ず声掛けを行ってから入室している。排泄時、オムツ交換時、更衣時など必ず扉を閉めてケアを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当者が日頃から利用者の思いを聞いたり、計画書の見直しの際に、計画作成担当者が本人の思いを確認している。本人が思いを言える状況作りを職員が配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の精神状態や健康状態を把握し、待つケアを行い、その方のペースを大切にしながら援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、洗面台にて髪をとかしてもらったり、洗顔の声掛けを行っている。自己にて出来ない方には、温かいタオルを渡して拭いてもらったり、職員が手伝ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備を行ったり、お盆拭き、おしぼりの準備を手伝ってもらっている。行事や誕生日に好みの献立が取り入れられる様担当者が利用者に好みを聞いている。ホットプレートを使用した昼食も取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定で主食量を考えたり、その方に合わせた補助食品を準備したりしている。水分摂取量を増やす為にお茶ゼリーや水分ゼリーを提供し、1日の摂取量を保っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、自分で出来る方へは声掛けを行い、介助が必要な方へは毎食後に必ず介助している。毎月、歯科衛生士による口腔ケア指導も受けている。口腔ケアの備品の確認を行い、定期的に交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄パターンを記録し、状況に合わせて声掛けを行っている。座位が保てる利用者はトイレやPTイレでの排泄支援を行っている。オムツの場合も排泄管理を行い、清潔に過ごせるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の状態に合わせて、医師の指導の下、看護師が排便コントロールを行っている。便秘予防の食材を献立に入れたり、水分量食事量のチェックを行い、適度な運動に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに入浴しているが、本人の体調や希望を聞き、入浴日を変更している。本人の精神状態も影響する場合があるので、ユニット間の情報共有に努め、入浴が楽しめるように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯の入眠状態を把握し、日中は居室やソファで休む時間を作ったり、また、日中の活動に参加することで、夜間の良眠を促す工夫をしている。看護師が入眠状態を医師に報告し、眠剤の相談を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	翌日の薬を前日に3人体制で確認し、当日の薬は、服薬前に日付・名前・個数の確認を必ず行い服用してもらっている。薬の内容は写真つきの薬剤表をファイルに入れており、全職員が確認出来る様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干す・たたむなど利用者様が出来る事を見つけ、役割として行なってもらっている。また、食べたいもの等あれば、担当が買いに行ったり、家族が差し入れをしてくれたりし、楽しみを持ってもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関までの外気浴は行なっているが、コロナ渦にあり、日常的な外出は出来ていないが、季節の花を飾り、季節を感じてもらっている。家族や知人から季節の食べ物や遠方の土産が届き、施設以外の交流が保てている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かったお小遣いはユニットリーダーが鍵のついたロッカーに保管・管理している。本人希望の物がある時や必要物品購入時は家族へ連絡し承諾を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に家族に電話したり、家族からの電話を取り次いだりしている。またビデオ通話を使用して、顔を見ながら話ができる支援を行なっている。届いた手紙やはがきは本人へ読んだり、居室へ飾ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やリビングに季節に応じた壁紙や飾りを行い、季節を感じてもらえるよう配慮している。歌謡曲・演歌などを流したり、時代劇や歌謡曲などを動画で見たりと楽しみが持てる工夫をしている。室温・湿度をチェックし、快適に過ごせるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを配置し、気の合う利用者同士でゆっくり過ごせるよう配慮している。居室でゆっくり過ごされる利用者が居たり、共有スペースで過ごす利用者が居たり、自由に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は自宅から持ってきて頂き、写真や置物などを飾り本人がくつろげる空間になるよう配慮している。テレビの持ち込みも可能で、好きな時間にテレビが観れるよう支援している。担当者が写真や飾り物を行い、明るい雰囲気づくりを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内のトイレや浴室はわかるように掲示している。居室やトイレまでの動線に危険なものは無いか椅子や手すりにゆりみは無いが月初めに点検を行っている。		